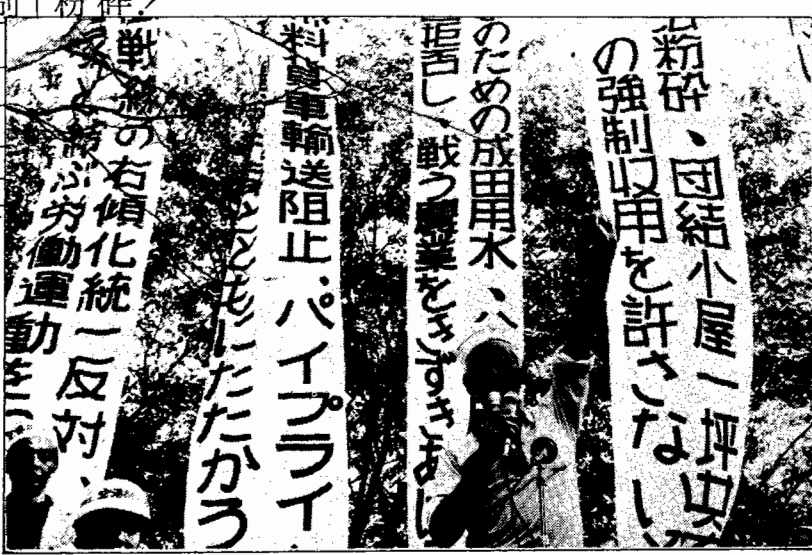


日刊 動労千葉

81.10.13
No. 867

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）四三三（二）七二〇七



「本気で闘う者はこの小川源についてこい！」10.11三里塚オムニバスは熱気にあふれた。

今年最大の1万1千5百名が結集

10.11 三里塚

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉碎！

巨万の決起で 二期着工阻止へ

集会は、内田行動隊長の力強い開会宣言で始まった。主催者代表挨拶に立った石橋政次副委員長は、「三里塚空港が、国際空港の美名のもとに万余の機動隊で守りぬかれなければ一日もたない車、滑走路一本の片肺空港である事に、その実態がバクロされていく。三里塚空港は軍事空港である。農地の強奪を絶対に許さない。戸村委員長、小川明治さんの遺志を受けつぎ、絶対に勝利する。」

いざ、二期決戦へ、万余の数が三里塚を埋め尽くし粉砕しよう、「と烈々たる気迫のこもった決意を表明した。

基調報告に立った北原事務局長は、「10月1日」という日は、14年前、白女の裏

二期着工実力阻止へ 突入宣言

二期着工阻止・空港隣港・10月1日全国総決起集会は、三里塚オムニバスに全国から一万一千五百名が結集して開催された。集会は、二期着工が今秋―来春に強行着工されんとする切迫化した情勢にあつて、かつてない闘う気運が盛り上がる中、反対同盟をはじめ全国の闘う諸団体が二期着工に抗して、空港外カク測量クイ打ち阻止闘争を、実力闘争として決起した歴史的な出発点であったと前置きし、「本日10.11集会をもって、反対同盟は、二期決戦に突入する」と、キッパリと宣言した。

そして、「17:30塩川・沼田会談、825行革からの成田賊特法の除外は、敵の側から二期強行にうって出た宣言だ。いよいよ正念場に入った。60年70年安保闘争を上まわる闘いを三里塚からはじめなければならぬ。労働運動が右傾化する中で、動労千葉はもう即争に決起した。三里塚を闘う労働運動こそが右傾化の波を阻止し、新たな未来をきり開く」と鮮明に提唱した。

又、「革マル派は、『接戦にいくと素泊り二千円、食事代、風呂代等合計八千六百円を、反対同盟は徴収しもうけていく』などとトランプモナイデマ宣伝を行っている。これは全日本人民を敵にまわしたものであり、全戦線から追放しなければならぬ。今、戦争への道を許すのか、阻止するのか三里塚即争の勝利にかかっている。来年3・28には、本日を倍する大結集で二期工事強行をうちくだこう。この過程で、着工への敵の動きがあれば直ちに全国から全力で現地に結集せよ」と提唱し、全体の拍手がこれにこたえた。

用地内 反対同盟の決起に続こう

基調報告のあとは、動労千葉をはじめ、全国の支援団体が、用地内での連帯の挨拶と決意が表明された。奥川委員長は、オムニバス大会の成功を踏えて、更にたくましく「オムニバスの3月決戦」闘争を準備していく動労千葉の決意を表明した。

戦争への道を 三里塚で断て

こうして用地内農民の決意を全参加者が共有し、決意を新たにし、16時前岩山記念館へむけた長蛇のデモを貫徹した。デモ終了後、動労千葉とジェット即争支援労組連絡会議は、千名の部隊で合同の総括集会をかちとり、三里塚勝利を通して、右翼的労戦「統一策動」を粉砕し、80年代を勝利する全国的潮流を構築してゆく事を誓った。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！